

理事会の動き

◆第90回理事会報告

平成2年3月10日(土)に第90回華心会理事会が、藤沢駅北口の藤江グランドホテルで開かれました。10名の役員が出席し、次の通り審議・決定されました。

いて審議し、原案通り承認されました。

〔案について審議されました。特に「新しい施設」の建設について、具体的に計画を立て、できることだけ早い時期に実現させるよう努力する事が確認されました。

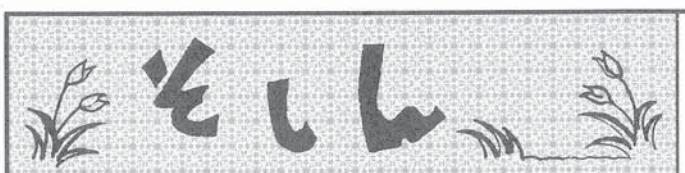
議案については原案通り承認されました。

の運営を側面よりも障害者の福という主旨で、
っています。

後援会活動のお詫び

第 14 号

1990年5月12日発行



Digitized by srujanika@gmail.com

むーくば
ニジューヨンパンチ

むーくは
ニシユーヨンパンチ

何となくワクワクする季節。小3まで通った学校で「ウォーン」「ガンガン」という音が響きわたつた頃もある。そこは校庭がとても小さくて、今はアスファルトだったが何故か残りの木は緑色をしていた。そこに響くその音は異様でもあり皆の好奇心もすぐついた。休み時間はもとより、授業中も気になつて仕方がない。ある日「何やってるの」じゃんけんに負けた子が怖おじさんに声をかけた。真っ黒に日焼けして汗をだらだら流して働くおじさんは、にっこり笑って「もうすぐ、みんながいるプールができるんだよ」と答えた。校内騒然！ そういわれてみればここにはプールがない。緑色の地べたの下には何とプールがかくれているのだ。おじさんは毎日のように変テコな機械や車と共にやって来て緑色をはがしていく。今まで地べただった緑色はブームを囲む壁に変身した。地べたの下は鉄筋が組まれていて、おじさんは少しつ壊して、それを校庭の隅に積んでいった。おじさん達がいなくなり、待望のプールが始まった。あそこでは、今でもそうして子供達がワクワクしているのだろうか。（豆）

後・援・会 コーナー

「みなさん」ご存知ですか

く、ていねいに説明をしてくれます。

院生と一緒にやへりたり、お
もちつきや大掃除に参加したり、
文系心学院の有精卵や紙書きハ
カキを買つたり…。

編集後記

▼今号の特集は、なかなか見えにくい部分で素心学派を支えて下さっている方々の登場——実は一番大切で、一番院生の皆さんが興味のある

きつと素晴らしい出会いが待っています。

S.58年 岐阜同賃金会
「グランドの水はけを良くする
工事をしました」

3万・全自动の大型洗濯機を買
いました」
H・1年 県共同募金会 161万
「淨化槽の改修工事をしました」
H・2年 NHK歳末たすけあい

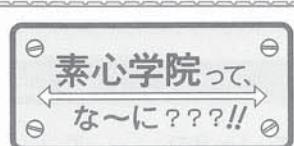
112万「作業用の6人乗りト
ラックを買いました(＊パック
の写真)

うな大きな形となって、私共の施設運営に役立っております。

を皆さんと一緒に一緒にしたいのです。
よろしくお願いします。(玉)
▼そして発行は――
神奈川県中郡大磯町虫塚24
電話(0-469)71-112555
社会福祉法人 素心会
素心学院施設長 田代哲郎

虫窪24番地
むいなくぼニシムーランバシチ

何となくワクワクする季節。小3まで通った学校で「ウォーン」「ガンガン」という音が響きわたつた頃もある。そこは校庭がとても小さくて、今はアスファルトだったが何故か残りの木は緑色をしていた。そこに響くその音は異様でもあり皆の好奇心もすぐついた。休み時間はもとより、授業中も気になつて仕方がない。ある日「何やってるの」じゃんけんに負けた子が怖おじさんに声をかけた。真っ黒に日焼けして汗をだらだら流して働くおじさんは、にっこり笑って「もうすぐ、みんながいるプールができるんだよ」と答えた。校内騒然！ そういわれてみればここにはプールがない。緑色の地べたの下には何とプールがかくれているのだ。おじさんは毎日のように変テコな機械や車と共にやって来て緑色をはがしていく。今まで地べただった緑色はブームを囲む壁に変身した。地べたの下は鉄筋が組まれていて、おじさんは少しつ壊して、それを校庭の隅に積んでいった。おじさん達がいなくなり、待望のプールが始まった。あそこでは、今でもそうして子供達がワクワクしているのだろうか。（豆）



回収A班は男子10名(通所2名)女子3名で構成されています。小型のワゴン車(エブリ)に乗って元気よく地域へ回収に出かけている私たちに、何度か会ったことがあるのではないかでしょうか。

今日は毎日の作業とは別に回収A班のメンバーの違った面をご紹介しましょう。

今頃のバスって、バスカードが出来たりしてなかなかトレンドになってきますね。回収A班の口氏、T氏、N氏はバスに乗って大磯駅前の「イズワキさん」へ散髪に行きます。職員の心配をよそに、元気にお金をぎりしめて飛び出していく姿は、練習のかいあって確実なものになってきています。大磯駅に着くとうれしくって、待ちきれなくて走ってしまいます。なぜかというと、お店に入ると、いつものちびひげのちょっとハンサムなイズワキさんが「お一つよく来た!!」と迎えてくれるからです。

いい男になってお店から出でると、今度は素心をめざします。時にバスの中でチャイムを鳴らし間違えたりするけど、何回も間違えてそれで少しづつ自信がついてくる様です。



作業前のダッシュ!

回収グループよりお知らせ

昨年度も、大磯町内の皆様に回収のご協力を頂きましてありがとうございました。

おかげさまで年間130万円の売上げがありました。この中より例年と同じく「地域還元金」としまして、毎月回収させて頂いています。8地区の子供会・自治会などに各3万円ずつ還元させて頂きます。今後ともご協力よろしくお願い致します。



ガラス越しの職員室

ガラス越しにみつめるここは、何故か人を惹きつける魅力がある。まるで街中のショーウィンドウの様に…。朝起きてから夜寝るまで何回となく立ち止まりみつめてしまう。何故だろう…。



其の四 (舞音・ペラギー職員) 「バー」を飲んでいる

其の五

ここには私たち住人の実にさまざまな呼びが集中する。受け入れる側にどつては、時として負担に感じたり、うるさく感じたりすることもあるかと思う。

だが、私たちはここに叫ぶよりもかかがないことも知つてほしい。私が人生の殆んどをすこすこに話しているのか気にならぬ。真剣に仕事をしている人がいる。何の仕事をしているのか気になる。落ちかない、イライラする、話を聞いてほしい。笑顔が沢山ある。何を楽しむ、かけてほしい。話しかけてほしい。仲間に入れてほしい。遊んではほしい。

続けてほしいと思う。

伊藤武治先生、佐々木壮六先生、佐藤一新先生、小椋道雄先生と学院の園芸・絵画などの創作グループの人たちが共に協力しあって、障板・絵画・刺繡などの作品を発表した。落ちつけた雰囲気の中に飾られた作品1つ1つが、重厚な感じに見えた。

今年度より通所部の定員が5名に増員された。新しく素心学院に通つて来るメンバーは一色呂子さん、菊川正則さん、曾根比呂子さん、滝沢登さん、西山涉さん、谷田部直樹さんの6名。



★3月8日～14日
大磯町立図書館のギャラリーにおいて「第一回心創展」が開催された。

1月15日
丹羽幸男さん・佐々木達二さん・加藤年一さんの3名が成人式を迎えた。オメデトウ! おとそ氣分がまだ抜けきらないうまくがまえて、それまでお湯を出して自分が好みのものを飲んでいる姿は、やはり羨ましい。

ここにはたくさんのものが外からがめているよりも、中に入ってそばで見たり触れたりしたほうがずっと楽しいものなのだ!!

だが、お店というものは、確実な一瞬のチャンスを見事生かしてすべりこむスリルがある。これは病みつき、クセになる。例えているなら、野球で盗塁に成功した時と同様の充実感があると思う。

ここには鍵がかかっている。当然のことながら自由に出入りはできない。だからこそ、一度のチャンス逃がさずにすりこむスリルがある。ここには赤い隣の花は赤い。ここ程自由になつてゐるかというと、まだ改善の余地があると私たちも思つてゐる。朝出勤してきて休み時間に、帰る前と自由にボットからお湯を出して自分好みのものを飲んでいる姿は、やはり羨ましい。

其の三

其の二

其の一

素心歳時記

思う壺

みんな春

ほんとうに大変でしたから、待ちに待った春です。

日。ベランダも布
団で花さかりです。
そうそう、庭では
いつの間にか、居
ついてしまった猫
（鳥目からうすく）

生後、一年十ヶ月でやつと歩くようになり、発育は遅々たるものでした。心配のあまり専門の先生に相談。ダウントン症との診断でした。

子供等に
希望と光を

卷之三

学院へ参りますと院生の皆さんが挨拶よろしく、のびのび家庭的な雰囲気が表れ、先生方のご理解と愛情にささえられてゐる事を感じにささえられません。感じに耐えません。

皇子は東大亞戦争前、神戸に生を受けました。それからの苦

す激しくなり、明生命もお互
いにわからぬ状態。一家で横瀬
から長野県岡谷に疎開、寒い所あ
ちこち連れ歩きました。その時は
わりと元気で遊んだり、皆さんは
の理解で私もは離せませんがお
思えは五、六才の時お客様がお

室内日班
中上米子



三〇九

おきます。それにもう二十年余程お世話になり、今では本人もためらうことなく支度をして帰院するようになります。先生方の優しいお顔を思い出しており、時には、おみやげをもついていくと申し駆前で買って参ります。

自の意志で忍む。「床
目ざまし時計で起きて、ドアル」「
氏のジープが迎えに来てくれるこ
とにならへる。が来ない！」

「おもしろいかな? う」とふと思つてしまふ。僕が今の道に入ったのもこんな感じだった。約30年近くも前の話だけれど…。このアシュラムからの出発は列車の向こうの一寺。

施設長
田代哲郎

ヨーヒー タイム or Tea?

COFFEE TIME

INDIA

インド旅行記

昨年12月から本年1月にかけて、1ヶ月のインド旅行に出かけた施設長に思い出を綴ってもらいました。



カルカッタの宿安街サダルストリートの一室に落ち着いたのは12月6日の午すぎだった。部屋には固いベッドが二つ、枕付き（カバーまで付いている）トランク一枚で、このホテル最高級の部屋だが、3年前より2倍の値段一千二百円である。

ユラムに、丁度、その3年ぶりに着いた。
「アシュラムのことは良く知って
いるさ」と言っていたオート三輪車
タクシーの運ちゃんは半日もあらず
この町を走り廻り、着いたのは大
午後だったが、子供達は元気で大
歓迎してくれた。

他に持参したお菓子の箱をあけ居合わせた村人も一緒に、ワイヤイガヤガヤの楽しい一時になった。前回10日間隔泊たしユニアムは、野菜にかえて、ババイヤやマンゴーの木が増え、アシショウラムの周りの不可文化住宅(?)もアシユラムの援助で文化住宅(?)に変わっている。こうしてヒビキヨコが

真暗な建物を脱け出し、門の横に
あるジー卜小舎の扉を思い切りた
たくと中から運転手らしき人が眼
たそうに出て来た。
エンジンのかからぬジー卜のお
しりを押しながら、アシュラムと
お別れした。
寝台の予約のためわざわざ夜中苑
の列車によつてこゝに、その列車は

おられます。
もう二十年余程お世話になり、
今では本人もためらうことなく支
度をして帰院するようになります
た。先生方の優しいお顔を思い出し
しており、時には、おみやげをも
つていくと申し駅前で買って参り
ます。

- 7 -

- 6 -